



ウルトラマリン

飯田 進

(兵庫)

不確かなものを信じているときの傍らに咲くアネモネの花

後悔も戸惑うこともなきままに堕ちて椿はことさら赤い

春愁のスマホ画面を滑らせる人差し指の湿る夕暮れ

山裾の西の斜面に群れながら迎合しない片栗の花

若いとは苦しいけれど明るくてウルトラマリンの夏がまたくる

永遠に虚無と闘うガンマンの荒野に白い野のユリの花

わがことにあらずとじつとして油断できない鞆葛は

鬱病に効かぬが強迫神経症に効くあの水中花を売って下さい

溪流の暗がり背せなに従えて凄味を効かす大蝮草

浮草の根はぐんぐんと伸びゆきてしつかり水を掴まえている

行間を読む天才がここにいる手紙の上の緑のカメムシ

夏の夜ゴキブリ一匹呑み込んで静かになった電気掃除機

黒こげの高級食パンほり出してうそぶいているポップアップトースター

夏の夜ハードロックのポリウムを絞りに不満のなき齢になる

青空に鳶が輪を描くより高く天守閣あり私の城下町

このごろの私

若い頃はその時の趣味や価値観はそのまま歳だけを取るものとなんとなく思うものだ。その事について意識して？考えて来たつもりだった。でもそれが音を立てて崩れるのを目の当りにして狼狽している。



心配すんな

川端富起子

(宮城)

このごろの私
昨年十一月に九十六歳の父
が他界した。しばらくは受け
入れられなかったが、暖かく
なり、気持ちはやわらいでき
た。父をたくさん詠んでいる
事に気付き、歌の中の父に会
えると思っている。

地理学を学びし夫の職業の建設コンサルタントとは何？

ハザードマップ、地図作りなどをして土砂災害の調査する夫

「新・扇状地」の歌を作りているわれに扇状地はと話し出す夫

自分の居る位置を認識できぬまま遠回りして人生と思う

起業して二十五年をアルバイトの学生達に支えられている

修士終え就職決まりし三人の祝いの宴 思い出語る

それぞれの就職先を聞きしのとにかく七年辞めるなど夫は

親元を離れて暮らす学生に正月料理をふるまいしことも

何処にいる父かと思う百箇日 早春の陽射しこぼれているよ

水仙の葉先がいたく目に沁みる実家の庭をひとり歩く

父の庭に父は居らねど春は来て梅の古木が花咲かせおり

この家を父は守りて守りぬき逝きしのちにも守りいるよう

幼き日に戻りて父母の居る家の縁側にすわり春の陽あびたし

もう一度「心配すんな」と言って欲し いつまでも父の娘なるわれ

亡き父を思い続けているうちに世の中はさくららの明るい春へ